

賀茂別雷神社 (上賀茂神社)周辺エリア

～上賀茂村・神山・大田神社・御蔭橋・明神川～

エリア概要

- 上賀茂及び神山地域は、上賀茂神社を中心とし、その背景の山地を含む地域である。終野は京都盆地の北端にあり、「野」あるいは「段丘」の地形を形成している。近年、それぞれ市街化が進んできている。
- 上賀茂神社から大田神社までに至る区域は和風意匠の建築物が建ち並び、丸山周辺の地区は、昭和に住宅が開発されたため、地区ごとに建築の意匠は異なる。

賀茂別雷神社（上賀茂神社） (世界遺産)

平安遷都以前よりこの地に住した賀茂氏の氏神で、祭神として賀茂別雷神を祀る。世界文化遺産である。¹⁾

上賀茂神社の境内は、広大なスペースに拝殿へと導く白い砂の先に朱色の鳥居があり、芝や境内林の緑とのコントラストがまぶしく鮮やかである。上賀茂神社とその背後の山地からなり、一体的な景観を形成している。



上賀茂神社



上賀茂村 (伝統的建造物群保存地区・ 界わい景観整備地区)

このあたりは、室町時代から上賀茂神社の神官の屋敷町として町並みが形成されてきたところである。明治維新までの旧集落は、上賀茂神社の神官（社司と氏人）と農民が集住する特殊な性格を持つ集落であった。そこで一般に社家町とよばれるようになった。明治以後は京都の近郊農村的性格を徐々に強め、社家町の性格は薄らいでいった。しかし、ここ明神川沿いには今日も社家が旧来のまま建ち並び、他所で滅びた貴重な社家町が清々しく残っている。



神山

上賀茂神社の御神体山として背後に一体的な景観を形成している。



大田神社

上賀茂神社の境外摂社（第3摂社）。地主神を祀ったのが始まりとされている。参道東側の池は大田ノ沢とよばれ、群生するカキツバタ群落は国の天然記念物に指定されている。²⁾



御蔭橋

明治2年の絵図にも描かれ、上賀茂神社へ向かう道路の渡河地点に位置。³⁾平成27年から概ね5箇年をかけて、最新の耐震基準を満たした橋にするとともに、橋の幅を広げ、歩行者等の安全性の確保や道路交通の円滑化を図ることを目的として、架け替え工事が行われた。



加茂街道

下鴨社と上賀茂社を結び、賀茂川右岸を葵橋から御蔭橋を経てさらに高橋に至るまでの道であり、明治2年の絵図には「作り道」と描かれる。現在、葵祭の行列の通り道となっており、ニレ科の落葉樹の並木が見られる。

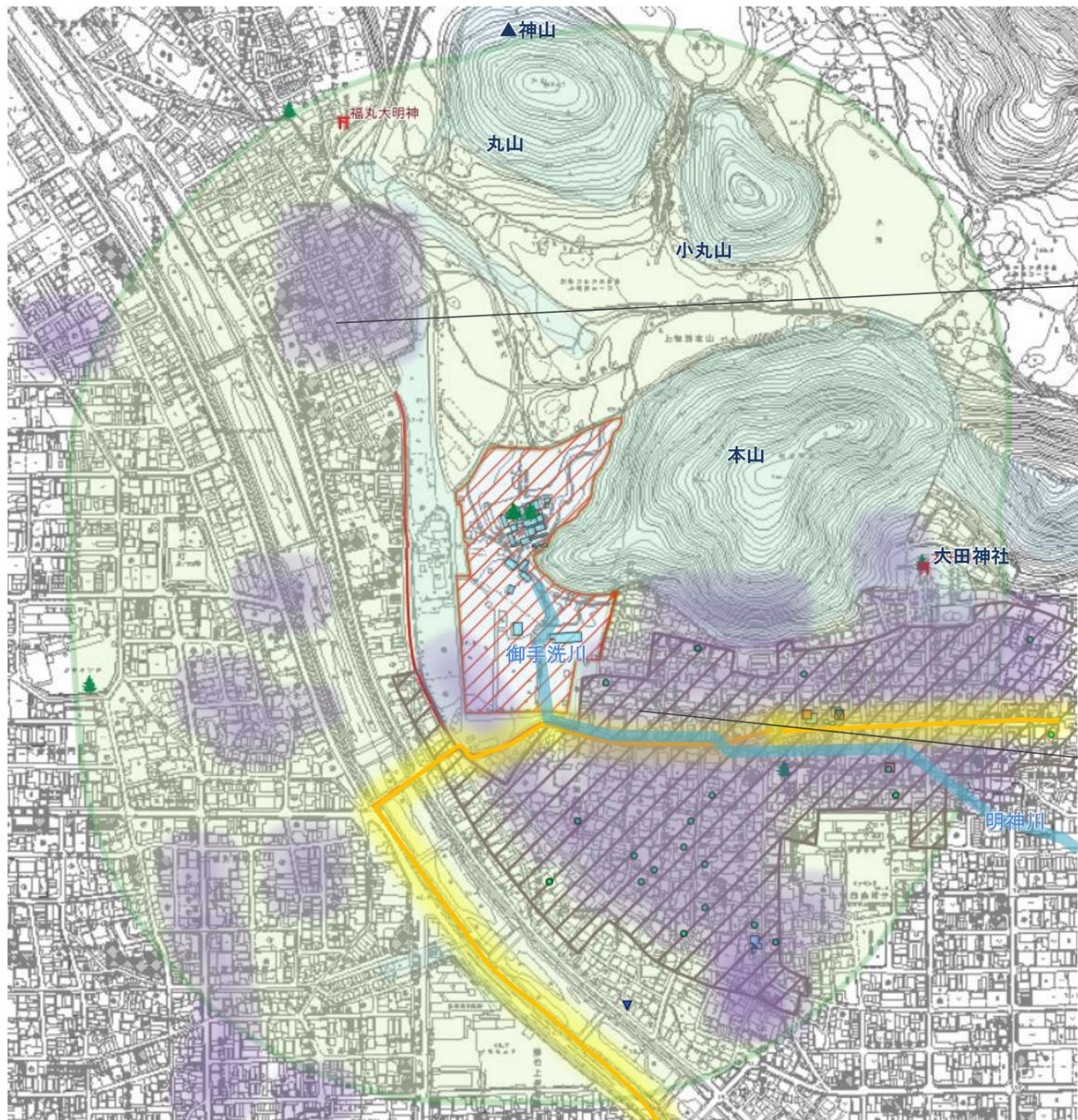


明神川

賀茂川を主な源流とし、上賀茂神社の境内に入ると、「御手洗川」と呼ばれ、禊に使われた神聖な川である。そして、神宮寺山から流れてくる「御物忌川」と合流し、「ならの小川」となって境内を流れ、境内を出ると分流し、「明神川」となり社家町の中を流れる。⁴⁾

- - - 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 特に着目する通り
- (白線) エリアの主な通り

エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

終野

終野は、1625年頃に田畑を開いたところで、上賀茂村の枝村として上賀茂神社が社領としていたという。また、この地域には古くから橋本姓を名乗る一族が住んでいて、上賀茂神社の北を守るために住んでいたといわれている。そのなかでも、明神川の取り入れ口を守っていたのではないかと考えられている。⁵⁾
 また、現在、この地区では、地藏盆のときのイベントとして灯ろう流しが行われており、明神川沿いを「場」として利用し続けている。⁶⁾
 終野には、写真のような洗い場が川沿いに残っており、生活用水に使われた面影が感じられる。



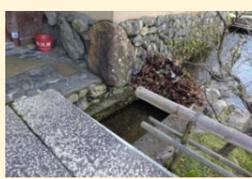
洗い場

上賀茂村

遅くとも15世紀中ごろには、現在の社家町に門前集落が発達し、社家と農民が混在して住んでいたと推測されている。また、江戸時代後期までには、人口は3000人を超えたといわれ、相当大的な村であったことが分かる。⁷⁾
 昭和63年1月には「上賀茂町並み保存会」が結成され、同年、「上賀茂伝統的建造物群保存地区」に指定された。さらに、国は「国重要伝統的建造物群保存地区」に選定した。
 明神川沿いには今日も社家が旧来のまま連担し、他所で滅びた貴重な社家町が清々しく残っており、門の前には明神川の洗い場が残されている。



明神川と町並



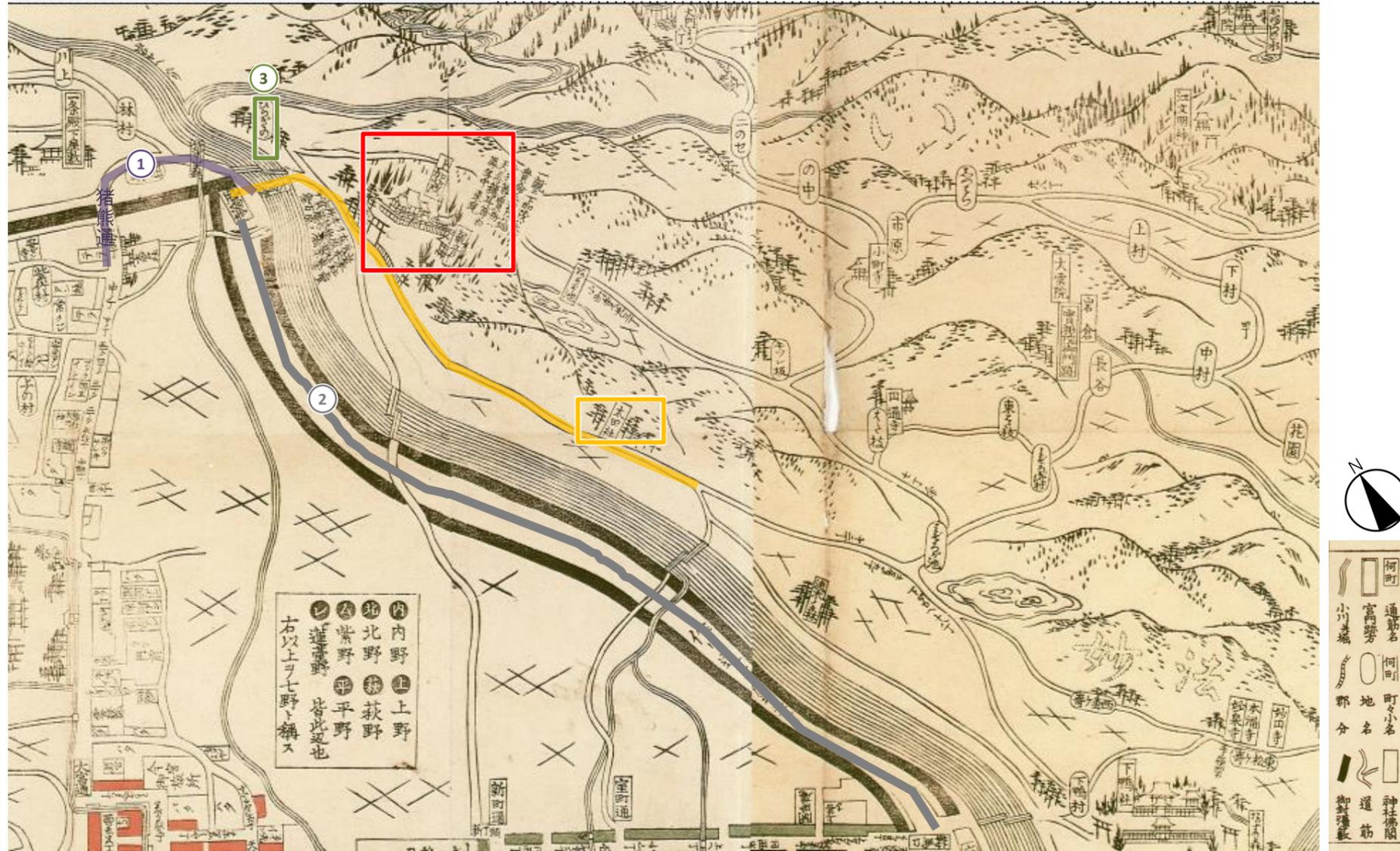
洗い場

【凡例】		
視点場 (境内)	景観重要建造物・歴史的風致形成建造物	樹木
視点場 (参道等)	歴史的意匠建造物	天然記念物
近景デザイン保全区域	界わい景観建造物	保存樹・区民の誇りの木
特に着目する通り	京都を彩る建物や庭園	
明治25年以前から存在する市街地	文化財 (建築物)	
界わい景観整備地区	文化財 (史跡・名称)	
	国土地理院社寺データ等 ※	

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

エリアの土地利用の変遷 (1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

①洛中から上賀茂神社への道

絵図によると、加茂街道と、現在の猪熊通が洛中からの道であったことが分かる。

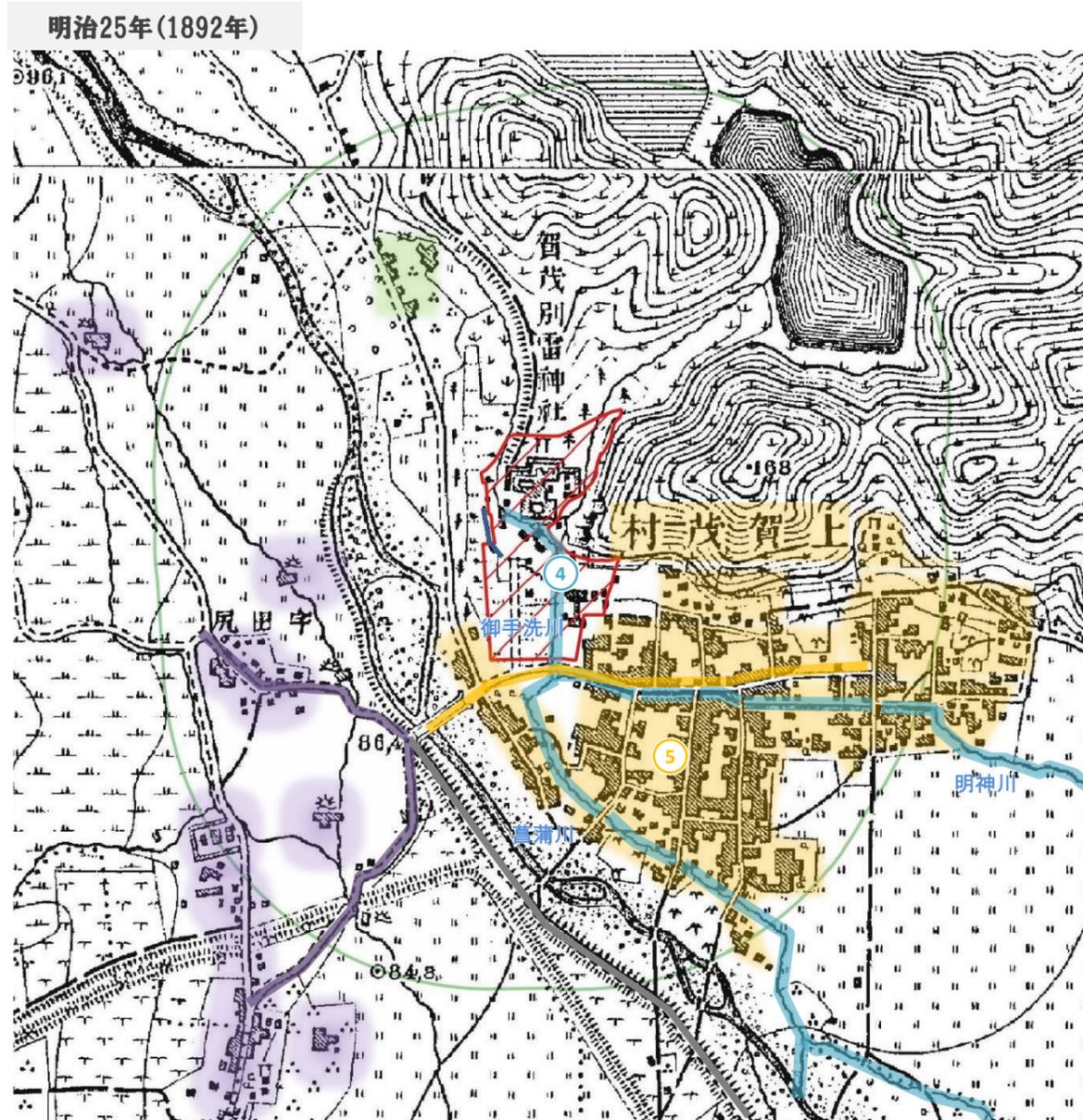
②加茂街道

下鴨社と上賀茂社を結び、賀茂川右岸を葵橋から御園橋を経てさらに高橋に至るまでの道である。

③ひらぎの

柗野は、1625年頃に田畑を開いたところで、上賀茂村の枝村として上賀茂神社が社領としていたという。また、この地域には古くから橋本姓を名乗る一族が住んでいて、上賀茂神社の北を守るために住んでいたといわれている。そのなかでも、明神川の取り入れ口を守っていたのではないかと考えられている。⁸⁾

エリアの土地利用の変遷 (2)



- 近景デザイン保全区域
- 視点場 (境内)
- 特に着目する通り

資料: 複製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

④上賀茂神社境内を流れる川

上賀茂神社の境内を流れる川は、場所によって次々と名前を変える。賀茂川を主な源流とし、上賀茂神社の境内に入ると、「御手洗川」と呼ばれ、禊に使われた神聖な川である。そして、神宮寺山から流れてくる「御物忌川」と合流し、「ならの小川」となって境内を流れる。境内を出ると分流し、一方は「菅蒲川」、もう一方は「明神川」となり社家町の中を流れる。⁹⁾

⑤上賀茂村

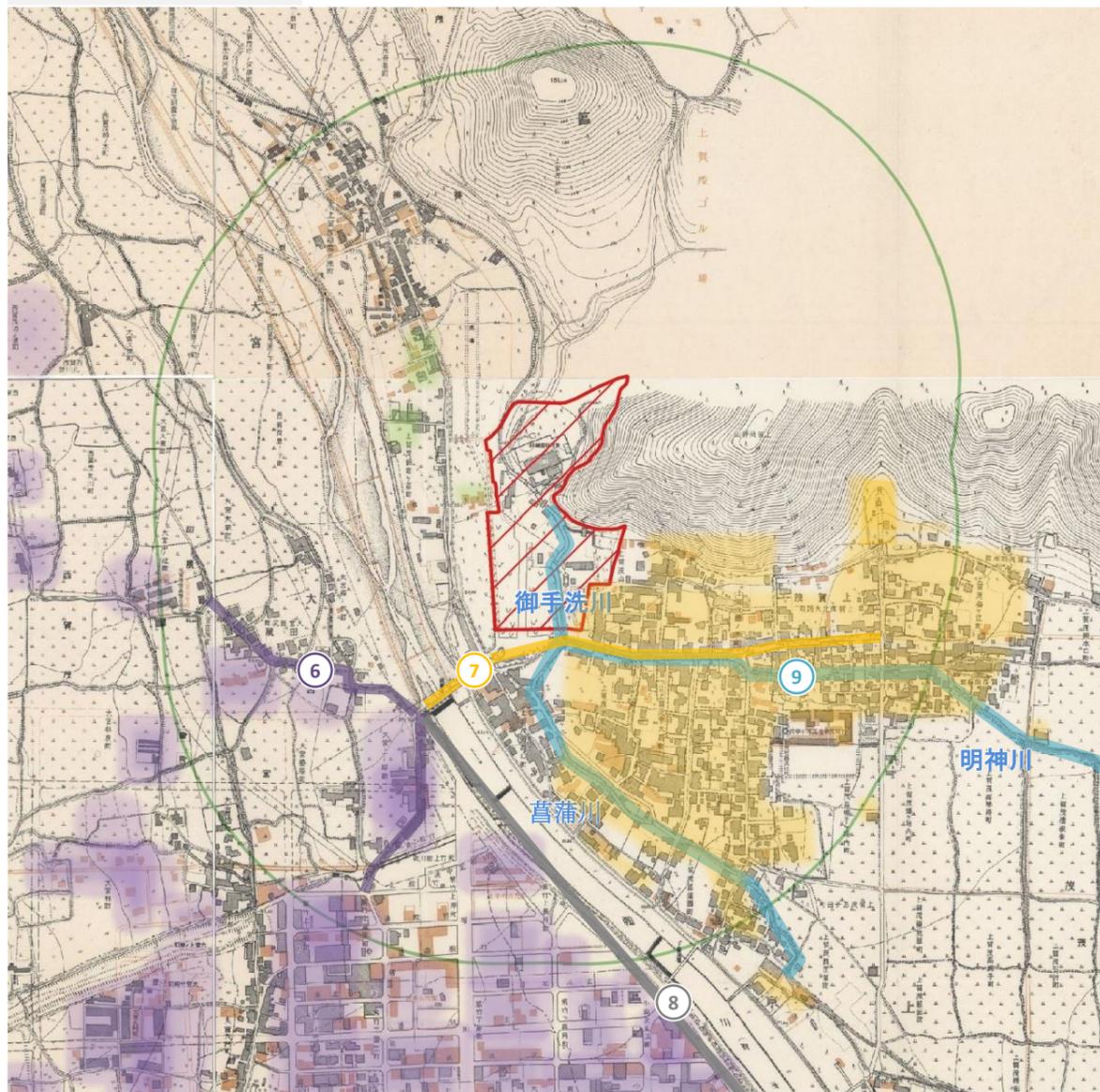
中世まで遡ってみると、上賀茂は、領主である上賀茂神社の膝下に賀茂六郷とよばれる惣組織がみられ、上賀茂の住人は、社家、寺家、地下人に別けられていたという。そして、遅くとも15世紀中ごろには、現在の社家町に門前集落が発達し、社家と農民が混在して住んでいたと推測されている。また、中世から江戸時代の絵図類によれば、上賀茂神社境内と集落の境を画する総門と思われる木戸門が見られた。戦国期の中で、上賀茂に住む氏人が中心となり、内には自治、外に対しては自衛の姿勢を示した社家が優位に立った町づくりが行われていたという。また、江戸時代後期までには、人口は3000人を超えたといわれ、相当大きな村であったことが分かる。¹⁰⁾

○上賀茂神社の樹木

神域として保護されていたのではなく、神社の財産として保護されていたものであると分かっている。また、1700年代には、風致の維持のために、境内で、樹木の植栽が行われた。大規模なため、下刈りは、社家町の人々が分担して行っており、役職があったという点が範囲の狭い糺の森の管理との違いだといえる。¹¹⁾

エリアの土地利用の変遷 (3)

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容

昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)
 (京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
 画像:立命館大学アート・リサーチセンター

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

⑥上賀茂神社へ続く道

明治・大正・昭和にわたって、上賀茂神社周辺の道はほとんど変わっていないことが分かる。

⑦上賀茂村

明治2年に上賀茂村役場が創設され、近代化していった。明治22年に上賀茂村と隣接した小山村が合併し、愛宕郡上賀茂村が成立した。その後、大正7年には、京都市上京区に編入された。昭和30年には北区となった。この間における上賀茂村の戸数、人口の大きな変化は見られなかったという。¹²⁾

上賀茂地域は昭和40年代頃から開発の波が押し寄せ、社家町もその影響を受けた。明治以降は京都の近郊農村の性格を徐々に強め、社家町の性格は薄らいでいった。¹³⁾ 昭和63年1月には「上賀茂町並み保存会」が結成され、同年、「上賀茂伝統的建造物群保存地区」に指定された。さらに、国は「重要伝統的建造物群保存地区」に選定した。

⑧加茂街道

昭和9年9月21日に室戸台風が襲い、賀茂川の街道沿いのマツは多くが倒れたという。¹⁴⁾ その後、昭和10年6月28日に大水害があり、賀茂川の堤が危険な状態になったので、竹・ケヤキなどの枝を切り倒し、それらを積み重ねて土手がくずれのを防いでいた。¹⁵⁾

⑨明神川

昭和10年頃までは明神川は生活用水として顔を洗ったり、口をすすいだり、茶碗や野菜を洗ったり、洗濯などもしていたという。ところが昭和11年の赤痢の大流行や上下水道の整備で、井戸水の利用なども含めて生活とのつながりはなくなったという。¹⁶⁾ 井堰の自動化は近年行われたが、それまでは、大雨が降ると、水利組合の人が駆けつけ、井堰を調節していたという。¹⁷⁾

上賀茂神社境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(1)

上賀茂神社

賀茂別雷神社の創建は古く、7世紀末にはすでに有力な神社となっており、さらに平安建都以降は国家鎮護の神社として朝廷の崇敬を集めていた。社殿は11世紀初頭までに現在に近い姿に整えられたが、その後衰微し、寛永5年（1628）に再興されている。この時の整備は境内全体におよび、記録や絵図を参考に平安時代の状況が再現された。再興後は本殿造替が7回実施されており、現在の本殿と権殿は文久3年（1863）に再建されたものである。

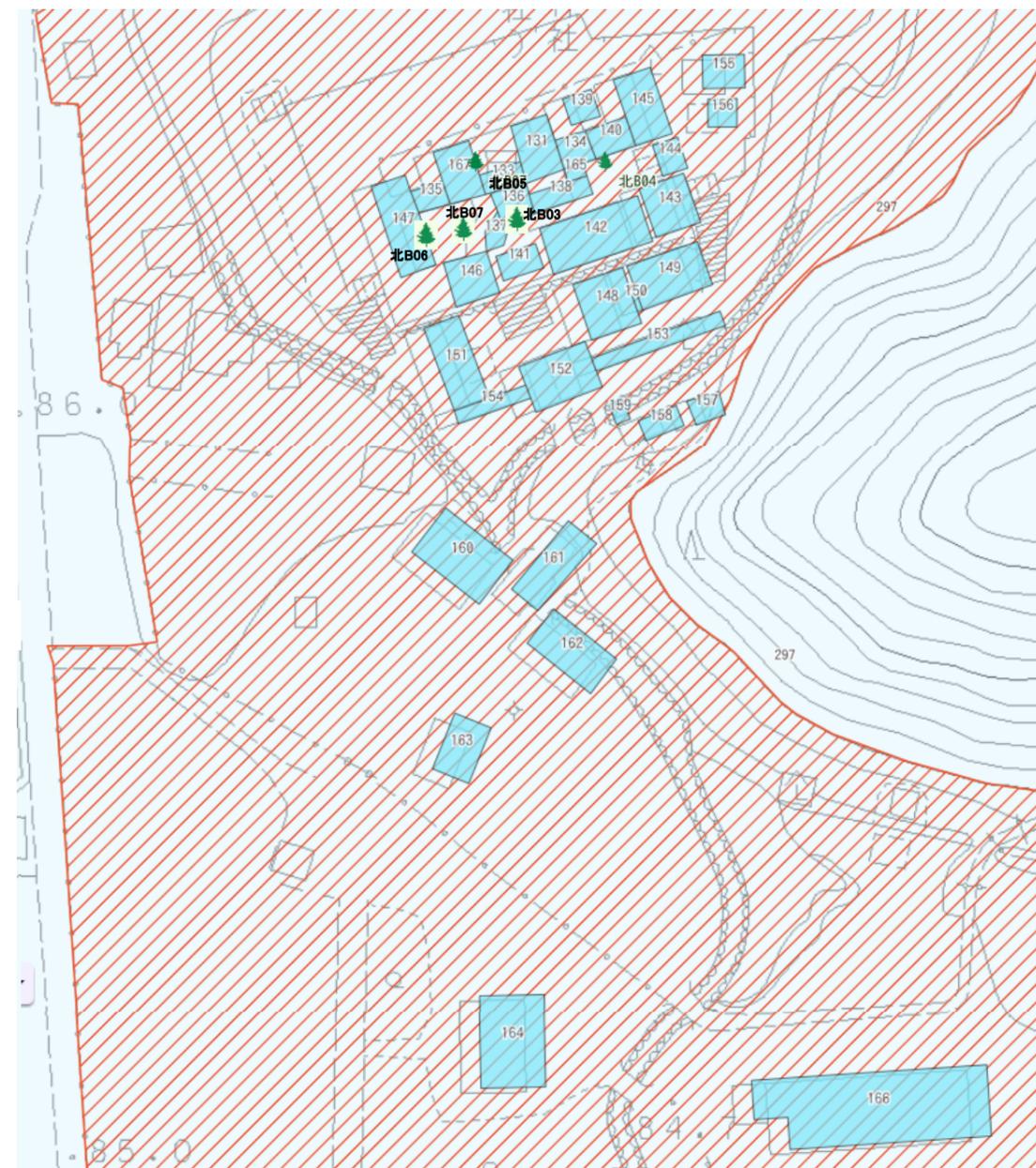
国宝の本殿と権殿は同大・同形式の建物で、東西に並んで配されており、正面3間、側面2間で正面に向拝をつけた流造りである。正面の流れを長くしている点にこの本殿形式の古制がよく示されている。境内にはこれらのほか、寛永5年に再建されたと考えられる拝殿以下34棟の重要文化財の建物が残り、古代の神社景観を現在に伝えている。

神社の聖域は、神社本体の後方もしくは周囲にある山や森林を含んでいることが特徴である。神社のこのような自然的特性はその歴史的環境に必要な不可欠なものである。賀茂別雷神社の登録区域には神社北方にある神山を含んでいる。

なお、当神社は京都の三大祭のひとつである葵祭が催されるなど、さまざまな神事や祭事の舞台としても親しまれている。¹⁸⁾

■ 文化財

国宝	本殿	131	権殿	167		
国指定重要文化財	本殿権殿取合廊	133	本殿東渡廊取合廊	134	西渡廊	135
	透廊	136	渡廊	137	祝詞舎	138
	摂社若宮神社本殿	139	東渡廊	140	四脚中門	141
	御籍屋	142	神宝庫	143	唐門	144
	東御供所	145	直会所	146	楽所及び西御供所	147
	幣殿	148	忌子殿	149	幣殿忌子殿取合廊	150
	高倉殿	151	楼門	152		
	廻廊	153	摂社新宮神社本殿及び拝殿	155	摂社片岡神社本殿及び拝殿	157
		154		156		158
	片岡橋	159	拝殿（細殿）	160	舞殿（橋殿）	161
	土屋（着到殿）	162	楽屋	163	外幣殿	164
	塀中門	165	北神饌所（庁屋）	166		
	国指定史跡	賀茂別雷神社境内	297			



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

<ul style="list-style-type: none"> 視点場（境内） 視点場（参道等） 近景デザイン保全区域 界わい景観整備地区 	<p>建造物・庭園</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 歴史的意匠建造物 界わい景観建造物 京都を彩る建物や庭園 文化財（建築物） 文化財（史跡・名称） <p>社 国土地理院社寺データ等 ※</p>	<p>樹木</p> <ul style="list-style-type: none"> 天然記念物 保存樹・区民の誇りの木
--	---	---

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m²以上の社寺データ

上賀茂神社境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(2)

[国指定重要文化財]



本殿※



本殿権殿取合廊※



本殿東渡廊取合廊※



西渡廊※



片岡橋※



拝殿 (細殿)※



舞殿 (橋殿)※



土屋 (着到殿)※



透廊※



渡廊※



祝詞舎※



摂社若宮神社本殿※



楽屋※



外幣殿※



塀中門※



北神饌所 (庁屋)※



東渡廊※



四脚中門※



御籍屋※



神宝庫※



権殿※



唐門※



東御供所※



直会所※



楽所及び西御供所※

[国指定史跡]



賀茂別雷神社境内



幣殿※



忌子殿※



幣殿忌子殿取合廊※



高倉殿※



楼門※



廻廊※



摂社新宮神社本殿及び拝殿※



摂社片岡神社本殿及び拝殿※

※：(画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム (GIS)

上賀茂神社境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(3)

■ 樹木

イチイガシ 北B03

[区民の誇りの木]

上賀茂神社の歴史は7世紀までさかのぼるといわれ、その例祭「葵祭」は京都三大祭の一つです。参道の奥にイチイガシがあります。イチイガシは暖帯の常緑高木で、大きく高く育ちます。



エノキ 北B04

[区民の誇りの木]

道路に接して直立し、高い所で枝を広げ、夏には緑陰をつくります。



シダレザクラ 北B05

[区民の誇りの木]

参道脇に広がる緑の豊かな芝生広場の中に、数本の大木が点在しています。このシダレザクラもその一つで、老木ですが、囲いで保護されて大切に育てられています。



キリ 北B06

[区民の誇りの木]

直径が1 mにもおよぶ大木で、5月頃に紫色の花を房状に咲かせます。



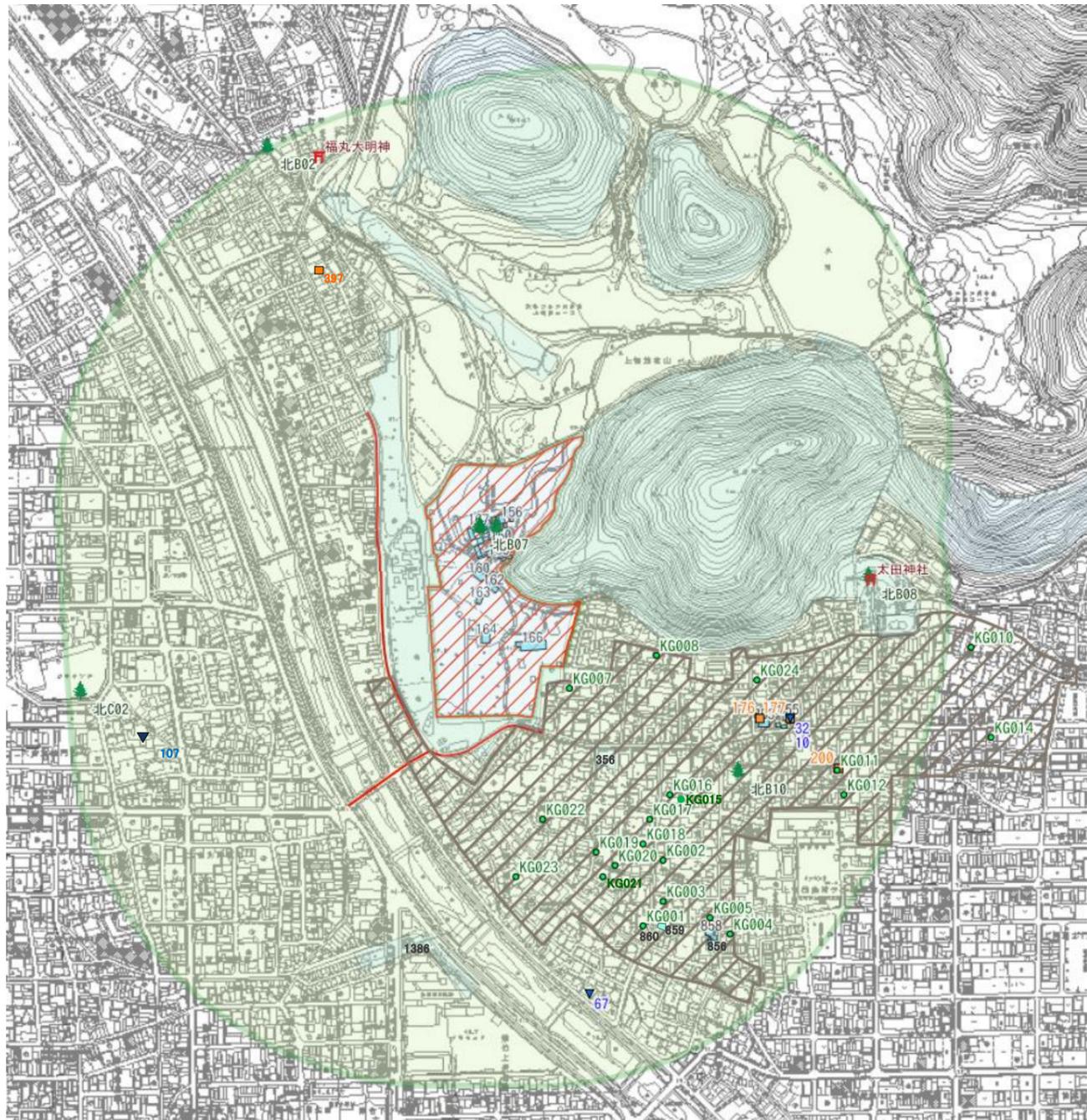
ムクノキ 北B07

[区民の誇りの木]

植樹帯の中にある大木です。頂上の枝が傘のように開いています。



上賀茂神社周辺の歴史的資産



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】					
	視点場（境内）		建造物・庭園		樹木
	視点場（参道等）		景観重要建造物・歴史的風致形成建造物		天然記念物
	近景デザイン保全区域		歴史的意匠建造物		保存樹・区民の誇りの木
			界わい景観建造物		京都を彩る建物や庭園
			文化財（建築物）		文化財（史跡・名称）
			文化財（史跡・名称）		国土地理院社寺データ等 ※

※ 国土地理院の数値地図2, 500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1, 000m2以上の社寺データ

大田神社



大田山の麓に鎮座する、上賀茂神社の境外摂社の一つ（第3摂社）。「延喜式」神名帳に載る愛宕群「太田神社」に比定される。祭神は天鈿女命とも猿田彦命ともいう。猿田彦命は大田命とも称し、社名はこれにちなむ。もとの地域の地主神を祀ったのが始まりとされている。参道東側の池は大田ノ沢とよばれ、群生するカキツバタ群落は国の天然記念物に指定されている。¹⁹⁾

ナギ 北B08

神社の片隅に育っています。ナギは暖かい地方に育つ種類です。庭木としても栽培され、日陰でも育ちます。その葉をお守りにすることもあります。

[区民の誇りの木]



クスノキ：末社 藤木社 北B10

明神川沿いにある藤木社は、上賀茂神社の末社です。クスノキはこの小さな社を覆うように生えていて、景観にとけ込んでいます。伸びやかに育った大樹は、地域の皆さんからも大切にされています。

[保存樹、区民の誇りの木]



景観上重要な建築物、庭園等

梅辻邸

[景観重要建造物・歴史的風致形成建造物、市指定文化財（建造物）、京都を彩る建物や庭園]



▼32、10/855/■177

（認定理由（京を彩る建物や庭園））

上賀茂に残る唯一の賀茂七家であり、主家と書院から成る。主家は上賀茂神社の鳥居を越えない切妻造りの屋根とし、書院は江戸時代に宮中から御学問所を移築したとの言い伝えがある。梅辻家は、代々上賀茂神社に仕えていた社家で、「賀茂七家」の一つである。前面道路に沿って長屋門及び土塀が並び、主庭をはさんで主屋が配されている。主屋は木造平屋建で、切妻造一部入母屋造の居室部と入母屋造の座敷部からなり、建築年代は祈祷札等から天保期と推定される。居室部は、上賀茂の社家住宅の特徴である式台と鳥居形の内玄関、供侍を残している。座敷部は、御所の御学問所を移築されたと伝えられており、押板風の床の間が付き、付書院を備え随所に菊の御紋が彫られた金具が使用されている。長屋門は、切妻造、棧瓦葺で上賀茂に現存する貴重なものとなっている。また、長屋門から主屋玄関までの前庭と座敷に面した奥庭を持ち、奥庭には御印殿が配されているなど社家を特色付けている。「賀茂七家」の現存随一の遺構で屋敷の内外にその特徴を色濃く残しており、上賀茂の社家住宅の代表例として、また通り景観の形成に重要な建物となっている。

（指定理由（景観重要建造物））

・上賀茂の社家の外観の特徴を色濃く残している。また、上賀茂の通り景観の特徴である土塀を残しており、連続する通り景観の形成に非常に重要である。

上賀茂神社周辺のその他の歴史的資産(1)

谷寛(たにかん)

[景観重要建造物]



▼67

(指定理由)
上賀茂の歴史的景観を構成し、京町家の影響を強く受けた近郊農村地域における住宅の外観意匠を良く残しており、当地区における建物様式の一つとして指標性がある。

西田邸

[景観重要建造物]



▼107

(指定理由)
当該建造物は、江戸時代後期の庄屋の屋敷構えとその後増築された洋館の意匠を良好に継承する貴重な建造物であり、古来より上賀茂神社と神光院を結ぶ沿道に配された門及び土塀とともに通り景観の要となる重要な建造物である。

上賀茂郷界わい景観整備地区

この地区は、中世以降、賀茂六郷の中心にあって、平安京の地主神社である上賀茂神社に仕える神官の住居(社家)や農家が混在する町として、明神川沿いを中心に発展してきた。この地区内の明神川を中心とする水路は、上賀茂神社と結ばれる「神聖」なものであると同時に戦国期の動乱の中で、自衛施設として整備された「構」や「堀」のなごりであり、近世までは生活用水、現代では「すぎき」をはじめとするこの地区の農業生産用の用水路でもある。また、道路は多くのT字路を有し、この地区の景観を豊かなものとしている。更に、明神川の清流や神宮寺山の緑などの豊かな自然環境を背景として土塀、薬医門や腕木門、土塀越しに見られる前庭の樹々により形成される通り景観、通りからこれらを介して望見できる社家の家扱首(いのこさす)による妻飾りや束と貫による妻飾り、農家の大屋根と深い軒、洗練された意匠の町家などが、ひなびた中にも厳しさを織り込んだ、まとまりのある界わい景観の特性を示している。

[界わい景観建造物、京都を彩る建物や庭園]

中澤家



●KG001

玉田家



●KG002



●KG003



●KG004

溝川家



●KG005

杜下邸



●KG007

奥村家



●KG008

岡本家



●KG010

幡野家 (山本家雲錦邸)



●KG011/■200

秋元家



●KG012

藤井家



●KG014

溝川家



●KG015

関目家



●KG016

北大路家



●KG017

中本家



●KG018

渡邊家



●KG019

八隅家



●KG020

池田家



●KG021

遠藤家



●KG022

渡辺家



●KG023

藤木家



●KG024

上賀茂神社周辺のその他の歴史的資産(2)

井関家

[市登録有形文化財(建造物)、京都を彩る建物や庭園]

明治に増築された3階部分は、四面が開く望楼風の建物となっている。枯山水の庭園には、おがたまの木や石灯籠があり、また、手水鉢の前には龍の口と呼ばれる排水口などが設けられ、先人の知恵が随所にみられる建物と庭園である。



市登録 / ■176

(認定理由(京を彩る建物や庭園))

井関家は、代々上賀茂神社につかえていた社家である。角地に位置する屋敷は、通りに面して土塀をめぐらせ、主屋の後方には土蔵が建つ。主屋は、江戸時代後期の建築と推定され、鳥居形の内玄関と式台を並べ、社家住宅としての外観を整える。主屋の中央には明治後期に増築された望楼風の3階が建ち上がり、この地区の景観を特色づけている。土蔵は弘化4年(1847)の建築で方2間の2階建、切妻造、棧瓦葺の屋根をのせる。また、表門から内玄関までの前庭や小祠を配した奥庭は、社家を特色づけるものとなっている。間取りや外観に社家住宅としての特徴を残す貴重な存在であり、土蔵、表門、土塀、庭を含め、上賀茂社家の屋敷構えを現在に伝える。

岩佐家

[市指定有形文化財(建造物)、市指定名勝]



市指定

岩佐家は上賀茂神社に仕えていた社家で、主屋・土蔵・表門・土塀が残り、庭園が配される。主屋は天明5年(1785)にはほぼ現在の間取りとなっていた。鳥居形の玄関や供待ち、束と貫で飾る妻面の外観などに社家住宅の特色が見られる。土蔵は宝暦14年(1764)の建築。

岩佐家は、上賀茂社家十六流れのうち「氏」の流れに属している。現在の庭園の原型は、南側に敷地を拡張した天明2年(1782)頃に築かれたものと考えられる。園池は、現在も明神川支流から流水を取り入れ、再び川に戻している。また、園地には、紐連飾りなどに用いられるユズリハがあるのも、社家の庭園らしさを感じさせている。建造物と一体のものとして、江戸時代から比較的良好に保存されてきた上賀茂社家の庭園であり、貴重なものである。



市指定

文化財等

[国登録文化財]



青木家住宅
(旧本尊美家住宅) ※
国登録

[国指定史跡]



御土居※
国指定

[市指定名勝]



西村家庭園
市指定

樹木等

クスノキ：大宮小学校
北C02

[区民の誇りの木]

校門脇にあり、幹は2本立ちで、樹形は丸く仕立てられています。



※：(画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム (GIS)

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

上賀茂風致地区

【景観特性】

当地区は、松ヶ崎地域、上賀茂及び神山地域、岩倉地域、上高野地域、八瀬地域、幡枝地域から構成され、一部の地域では大規模施設による人工的な改変が見られるものの、五山の送り火や宝が池公園の区域である松ヶ崎地域の山地等のように、全体としては緑豊かな森林が保全されている。

【景観形成の方針】

上賀茂及び神山地域は、上賀茂神社とその背後の山地からなり、京都盆地の北端にある終野は、「野」や「段丘」の地形を形成している。これらの周辺部は市街化が進んでいるため、市街地北端の緑である神宮寺山や本山の山景及び緑の保全、高台の住宅と背後の緑との調和、本山西麓の自然景観の保全に配慮する。また、貴重な生物群集で知られる深泥池については、周辺を含めた自然環境の保全に配慮する。また、当地域では、上賀茂神社から大田神社までに至る区域の社家町風の和風、鞍馬街道沿い及び深泥池西側の地域の農家風、さらに丸山周辺における現代的デザインといったように建築デザインは地区ごとに異なるため、これらの建築デザインに配慮した建築物の誘導を図る。さらに、終野地域の賀茂川東岸側の平地部における運動施設群周辺の擁壁等については、周辺の自然的環境との調和に配慮する。



1) 上賀茂神社(北向き)

鴨川風致地区

【景観特性】

当地区は、賀茂御祖神社（下鴨神社）及び府立植物園を含む、賀茂川及び高野川の両河川とその沿岸、賀茂川と高野川の合流地点からJR東海道線までの鴨川から構成され、河岸の樹木が、鴨川風致の核である府立植物園、下鴨神社、糺ノ森等の優れた緑地空間と川の清流と一体となって、他の大都市では見られない都心の水と緑の空間を構成している。また、沿岸の大半の住宅地においても、豊かな生垣、植栽が施されている。



2) 賀茂川右岸から上賀茂神社側を望見

【景観形成の方針】

●のびやかな水と緑の遠望景観

賀茂川及び高野川の両河川とそれらの沿岸とがのびやかな水と緑の遠望景観を構成している。このため、公共施設等の構造物においては、この河川景観の保全や眺望される山並み等に配慮したデザインとし、さらに沿岸の建築物においては、河川側での空間の確保、緑の演出、高さや勾配屋根を大切な要素として、のびやかな水と緑の遠望景観の保全を図る。また、各河川の沿岸、下鴨神社周辺や府立植物園周辺等、それぞれの区域が景観的特色を有しており、それらの景観的特色の保全を図る。

●堤防上のニレ科の落葉樹と住宅の生垣の緑の連続

賀茂川沿岸は、堤防上のニレ科の落葉樹と住宅の生垣の緑が連続し、家屋の勾配屋根が樹間に見えて、京都らしい水と緑の遠望景観を構成している。

上賀茂郷界わい景観整備地区

【景観特性】

この地区は、中世以降、賀茂六郷の中心にあつて、平安京の地主神社である上賀茂神社に仕える神官の住居（社家）や農家が混在する町として、明神川沿いを中心に発展してきた。この地区内の明神川を中心とする水路は、上賀茂神社と結ばれる「神聖」なものであると同時に戦国期の動乱の中で、自衛施設として整備された「構」や「堀」のなごりであり、近世までは生活用水、現代では「すぐき」をはじめとするこの地区の農業生産用の用水路でもある。また、道路は多くのT字路を有し、この地区の景観を豊かなものとしている。更に、明神川の清流や神宮寺山の緑などの豊かな自然環境を背景として土塀、薬医門や腕木門、土塀越しに見られる前庭の樹々により形成される通り景観、通りからこれらを介して望み見られる社家の家紋首（いのこさす）による妻飾りや束と貫による妻飾り、農家の大屋根と深い軒、洗練された意匠の町家等が、ひなびた中にも厳しさを織り込んだ、まとまりのある界わい景観の特性を示している。

【景観形成の方針】

- ・上に示した特色ある景観を維持及び継承させること。
- ・隣接する上賀茂伝統的建造物群保存地区内の景観と調和する景観とすること。

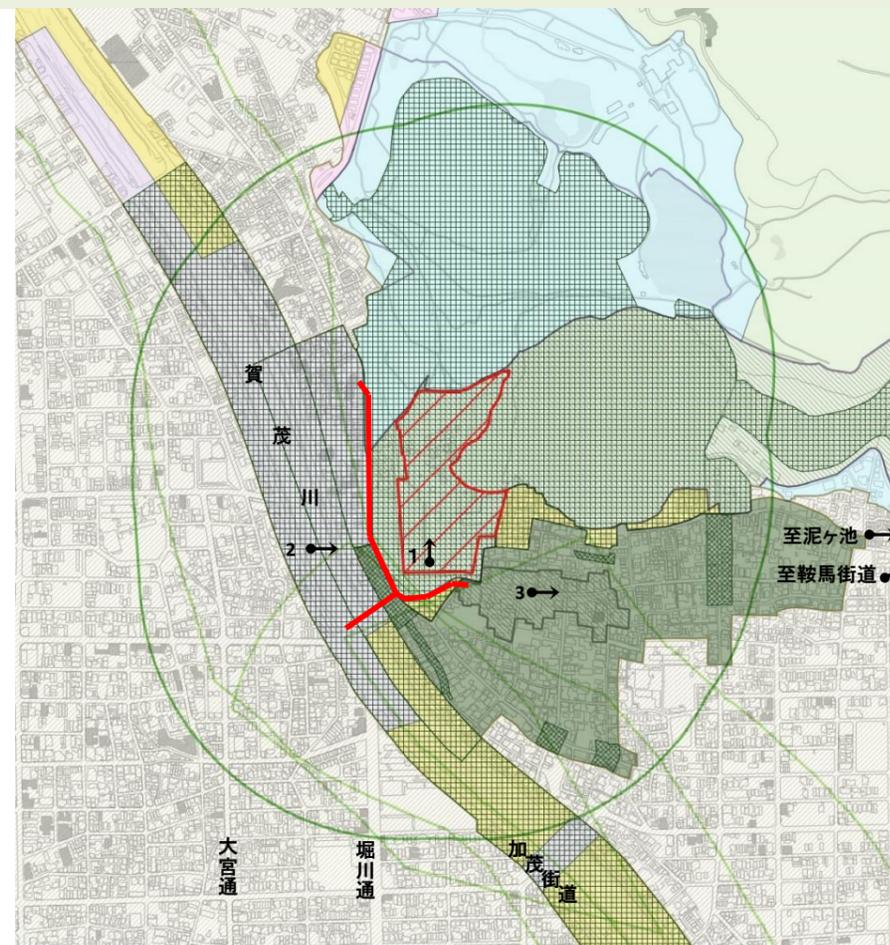
上賀茂伝統的建造物群保存地区

【現況及び保存に関する基本的な考え方】

当地区は、明神川に架かる土橋、川沿いの土塀、社家の門、妻入りの社家、土塀越しの庭の緑、これらが一体となって江戸期にできた社家町の貴重な歴史的風致を形成している。当地区の伝統的建造物の特徴を述べると、社家の住宅は、主屋は切妻平屋建て棧瓦葺が原則で妻入りのものと平入りのものがある。妻入りの場合には庇を付け、妻壁に独特の妻飾りをみせる。町家は、平入りで少したちを高くして2階に居室を設けるが、正面は、つしとし、じゅらく又はしつくい塗りの壁にむしこ窓を設け、柱と貫とで飾っている。また、本2階建てに建て替えられている町家も見受けられる。現在、当地区の建造物は52戸で、このうち伝統的建造物群を構成している伝統的建造物は、約63パーセントである。これらの伝統的建造物は、社家と町家の様式に大別できる。社家主屋の妻飾りに多少のバリエーションが見られるが全体の屋敷の構成はほぼ同じ様式である。特に明神川から前庭の池に取り入れた水を清いまま、また、元の明神川に返す水を通しての連帯ができてるのが珍しい。



3) 社家町の景観



【凡例】

眺望景観保全区域	景観地区
視点場（境内）	山ろく型美観地区
視点場（参道等）	山並み背景型美観地区
近景デザイン保全区域	岸辺型美観地区
風致地区	旧市街地型美観地区
風致地区第1種地域	歴史遺産型美観地区 一般地区
風致地区第2種地域	歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
風致地区第3種地域	歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
風致地区第4種地域	重要界わい景観整備地域
風致地区第5種地域	沿道型美観地区
風致特別修景地区	市街地型美観形成地区
建造物修景地区	沿道型美観形成地区
山ろく型建造物修景地区	
山並み背景型建造物修景地区	
岸辺型建造物修景地区	
町並み型建造物修景地区	
その他	
伝統的建造物群保存地区	
歴史的風土保存地区	
歴史的風土特別保存区域	

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

(資料)

- 1) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.157
- 2) 同上、 p.127
- 3) 同上、 p.875
- 4) 林倫子・林孝弥・出村嘉史・川崎雅史. 「明治以降の上賀茂社家町における池と水路網の水システムの変遷」. 土木史研究論文集. 社団法人 土木学会. 2009. p.59-p.65
- 5) 勝矢淳雄. 「明神川にかかわる生活の今昔」. 下水道研究 第13号. 日本下水文化研究会. 2001. p.217
- 6) 宇戸 純子. 「沿川居住者への聞き取りから考える明神川保全に向けての現状と課題」. 京都産業大学総合学術研究所所報 3. 京都産業大学. 2005. p.149-p.165
- 7) 村上 昶一・[ほか]編集委員. 「近畿地方の町並み」. 日本の町並み調査報告書集成 9. 東洋書林. 2003.
- 8) 勝矢淳雄. 「明神川にかかわる生活の今昔」. 下水道研究 第13号. 日本下水文化研究会. 2001. p.217
- 9) 林倫子・林孝弥・出村嘉史・川崎雅史. 「明治以降の上賀茂社家町における池と水路網の水システムの変遷」. 土木史研究論文集. 社団法人 土木学会. 2009. p.59-p.65
- 10) 村上 昶一・[ほか]編集委員. 「近畿地方の町並み」. 日本の町並み調査報告書集成 9. 東洋書林. 2003. p.
- 11) 今西 亜友美・杉田 そらん・今西 純一 [他]・森本 幸裕. 「江戸時代の賀茂別雷神社の植生景観と日本林制史料にみられる資源利用」. 『ランドスケープ研究 74(5)』. 日本造園学会. 2011. p.463-p.468
- 12) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1985. p.243
- 13) 村上 昶一・[ほか]編集委員. 「近畿地方の町並み」. 日本の町並み調査報告書集成 9. 東洋書林. 2003. p.19
- 14) 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 親と子の下鴨風土記. 下鴨の文化をこどもたちに伝える会. 1991. p.46
- 15) 勝矢淳雄. 「明神川にかかわる生活の今昔」. 下水道研究 第13号. 日本下水文化研究会. 2001. p.47
- 16) 勝矢淳雄. 上賀茂明神川における美化保全活動の課題と今後の展開. 下水文化研究発表会講演集. 下水文化研究発表会. 1999. p.82
- 17) 同上、 p.79
- 18) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産. 古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.141
- 19) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.127、 p.128